



CATALER
CSR REPORT 2018
株式会社キャタラー CSRレポート

株式会社 **キャタラー**

〒437-1492 静岡県掛川市千浜 7800 番地
TEL: 0537-72-3131 FAX: 0537-72-5647

[研究開発拠点]



〒438-0112 静岡県磐田市下野部 1905 番地 10
TEL: 0539-77-3000 FAX: 0539-77-3010

<https://www.cataler.co.jp>

キャタラー CSR

キャタラー公式 SNS



TOP MESSAGE

トップメッセージ

カタラーは創業以来、触媒と活性炭により空気や水を浄化する新しい環境技術を開発し、グローバル規模で環境問題の解決に取り組んでいます。

これによって、人と環境に優しい製品をお客様にお届けし、持続可能な未来社会作りに貢献しています。

生産工程においては、地球温暖化を防止するために、エネルギー使用量の合理化活動を推進しています。

廃棄物ゼロを目指すゼロエミッションも達成し、現在も維持しています。

また、周辺地域の清掃活動や植樹活動に協力し、創立周年記念事業の一環として5年毎に公共施設等に備品等の寄贈を継続的に行うなど社会貢献活動も積極的に行っています。

今後もお客様に喜ばれる製品開発とともに、環境保全活動や社会貢献活動を通じて社会からの信頼を得て、すべてのステークホルダーの皆様のご期待に応えていく所存です。

代表取締役社長

研川博明



カタラー経営理念

- 内外の法及びその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を実践する。
- 人と環境のより良い調和を目指した先進的技術・製品の提供を通じて、顧客の満足と豊かな社会造りに寄与する。
- 労使相互信頼を基盤とし、社員がその能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成し、日々新たな可能性に挑戦する。
- 地域の発展に貢献するとともに、地域の人々から愛され、信頼される企業を指向する。

カタラーグループCSR指針

「私たち（株式会社カタラーおよびその子会社）」は、「経営理念」に基づき、グローバル企業として、各国・各地域でのあらゆる事業活動を通じて、社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に率先して貢献します。

私たちは、国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠意を尽くし誠実な事業活動を行います。

私たちは、持続可能な発展のために、以下のとおり全てのステークホルダーを重視した経営を行い、オープンで公正なコミュニケーションを通じて、ステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努めます。

私たちは、取引先がこの指針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

(詳細は <https://www.cataler.co.jp/pdf/csr/cataler-csr-group-guideline189510.pdf>)



仕入先CSRガイドライン

カタラーは製品・サービスの提供を通じ、住みよい地球と豊かな社会づくりへ貢献するために、グローバル規模での環境マネジメントの徹底と持続可能な社会の実現に寄与していきたいと考えています。

そこで仕入先の皆様の社内において、下記項目への取り組みの浸透・普及に努めていただきたいと思います。

コンプライアンス



法令及びその精神の遵守

機密情報の管理・保護

輸出入取引管理

腐敗防止

人権・労働



差別撤廃

人権尊重

強制労働撤廃

賃金

労働時間及び安全・健康な労働環境

地域・グローバル社会



環境保全

責任ある資源・原材料調達

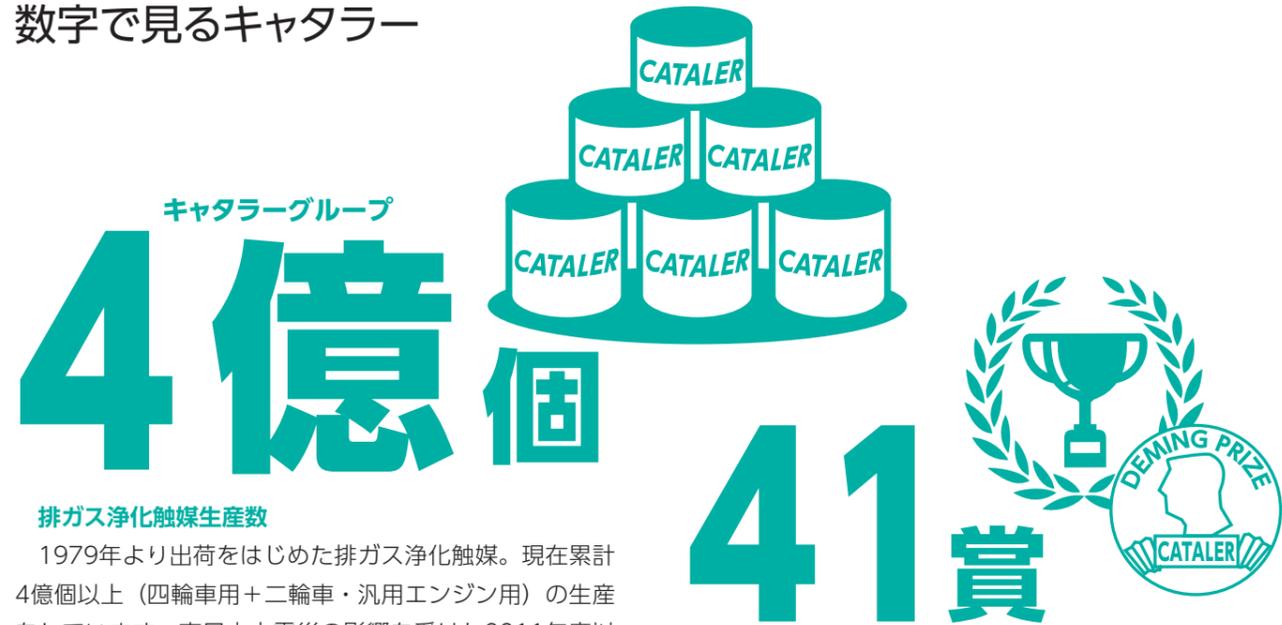
地域への貢献

ステークホルダーへの情報の開示

(詳細は <https://www.cataler.co.jp/about/procurement.php>)



数字で見るキャタラー



1979年より出荷をはじめた排ガス浄化触媒。現在累計4億個以上（四輪車用+二輪車・汎用エンジン用）の生産をしています。東日本大震災の影響を受けた2011年度以降6期連続で生産数は増加しています。

2017年度の生産数量は、キャタラー史上最高の約2,800万個となっています。

過去5年の品質賞受賞数です。

キャタラーは、お客様から「品質」に関する賞を多くいただいています。製品品質はもちろんのこと経営品質も高く評価され、2015年には、総合的品質管理（TQM）の活動で優れた成果を挙げた企業や事業所に授与される「デミング賞」を受賞しました。現在は、更にTQMの活動を深化させるため、「デミング賞大賞」の受賞に向け邁進しています。



キャタラーは、『女性の新卒採用率20%以上』を一つの指針とし、女性が活躍できる職場づくりを進めています。女性の所属を職種別にみると、研究開発本部が27%で最も多く、次いで経営管理本部で25%となっています。仕事の内容によって、男女比に偏りのある部署もありますが、キャタラーでは性別を問わず活躍できる場が整えられています。キャタラーは、産休・育休制度はもちろん、仕事と家庭生活の両立を支援するための様々なサポート制度を整備しており、実際に多くの社員が利用しています。

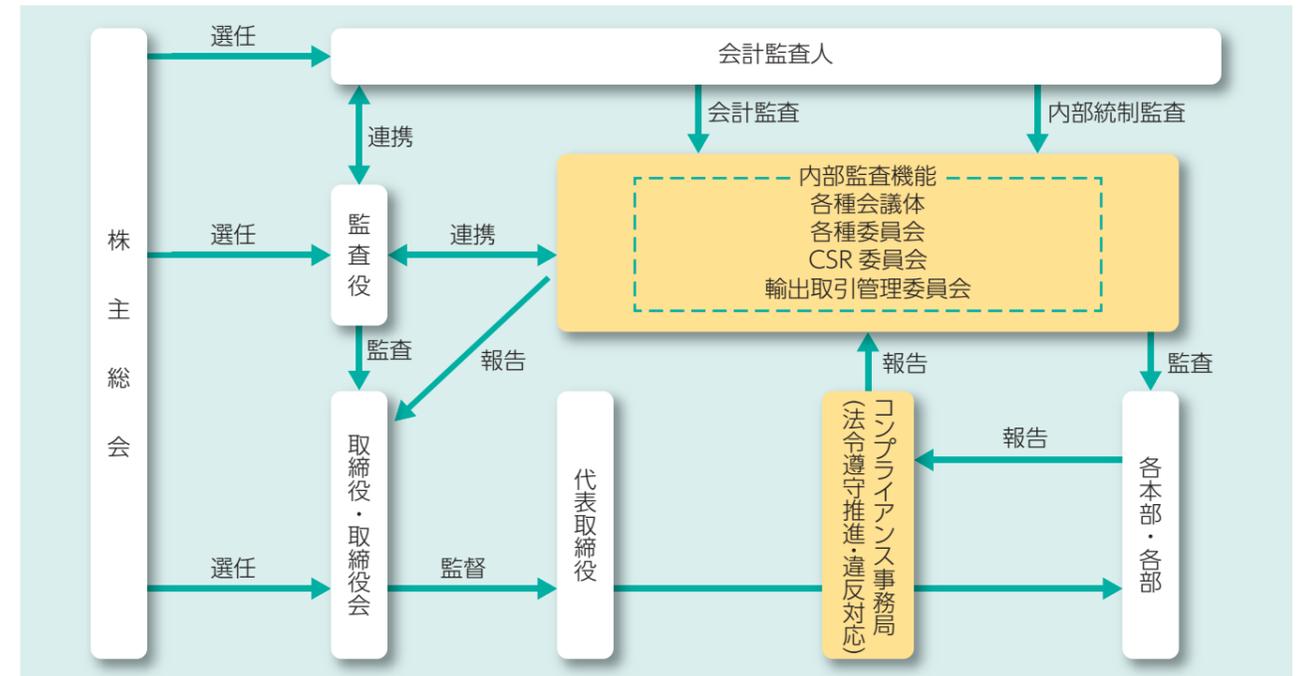


女性の「育児休業復帰率」は産後の育児のため、育児休業制度を利用した女性社員のうち職場に復帰した割合を言います。キャタラーでは出産した女性社員の復帰率が驚きの100%です。キャタラーでは経験豊富な社員が子育てと仕事を両立できるように一人ひとりの状況に合わせた柔軟なサポートや支援制度の整備、復帰しやすい職場環境づくりに努めています。

コーポレートガバナンス

企業組織が、健全かつ効率的な運営がなされるためにはコントロール及びモニタリングなどの仕組みや体制=コーポレートガバナンスが重要となります。キャタラーでは、株主総会、取締役会、監査役を設置すると同時に会計監査人の監査によ

て適正なコーポレートガバナンスを確保しています。さらに各種会議体や「CSR委員会」「輸出取引管理委員会」などの各種委員会を設置することによって、重要事項の審議・業務執行のチェックや内部監査機能の充実を図っています。



コンプライアンス活動

当社では「内外の法及びその精神を遵守し、オープンでフェアな活動を実践する」という経営理念の下に、ステークホルダーから信頼される経営を目指し、「問題の起きない社内のしくみの構築」と「コンプライアンス意識の醸成」を活動の両輪とし、コンプライアンス活動に取り組んでいます。

「問題の起きない社内のしくみ」としては、「内部通報制度」が挙げられます。現行、社内相談窓口（人事部・労働組合）と社外相談窓口（外部法律事務所）の2系統保持しており、社内の問題については早期に吸上げ会社として自浄作用が機能するよう運用しています。この通報制度はグループ内の全ての拠点でも同様の機能が発揮できるよう、グローバル全体での内部通報制度の構築を本年の取り組みとしています。

「コンプライアンス意識の醸成」の取り組みとして、新入社員教育や新任管理職教育などの階層別教育とは別に、毎年10月を「CSR月間」とし、各種取り組みによって、社内におけるコンプライアンス意識の醸成を図っています。昨年度は外部講師を招聘し、これまでの経験や知識を踏まえ、財務不正の種類や傾向、不正発見のチェックポイント、初動対応の重要性について講演をしていただきました。これにより従業員に知識をインプットし、コンプライアンス違反防止につなげています。



TOPICS

世界初の燃料電池車 (FCV) に採用された電極触媒について

2014年にトヨタ自動車から世界初の量産型燃料電池車 (FCV) 「MIRAI」が発売されました。MIRAIは、従来の内燃機関と異なり、車両に搭載した水素と空気中から取り込んだ酸素を燃料電池の心臓部品である「電極触媒」により化学反応させることで電気を発生し、その電気でモーターを駆動し走行します。そのため、CO₂などの環境負荷物質を排出せず、排出するのは水だけという「究極のエコカー」です。キャタラーでは、15年以上前から電極触媒の開発に着手し、長年培った排ガス浄化触媒技術や環境ケミカル技術を応用することで、反応性が約3倍向上した高性能電極触媒を開発し、それが「MIRAI」に採用されています。今後も低炭素社会の実現を可能にする水素社会の実現に向け、電極触媒の更なる開発に邁進します。



燃料電池車 MIRAI

提供：トヨタ自動車



電極触媒

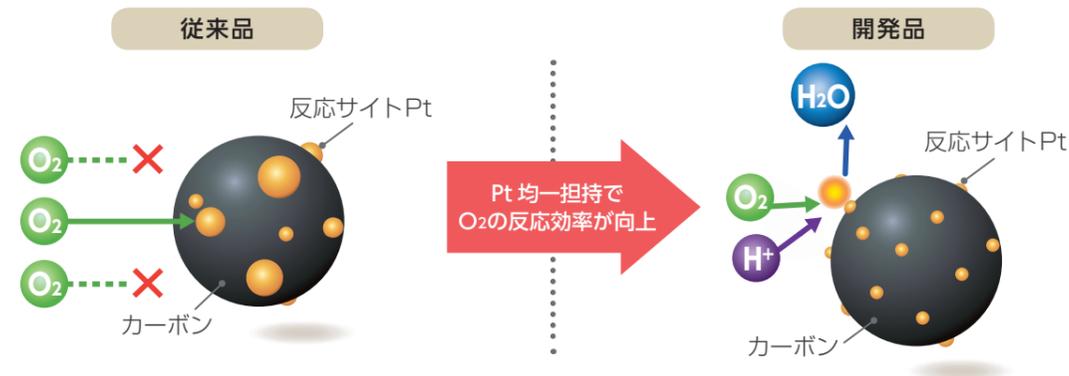
- 2015年 モノづくり日本会議/日刊工業新聞社 「日刊工業新聞創刊100周年記念賞」受賞
- 2015年 触媒工業協会「技術賞」受賞

キャタラーの貴金属 (PtCo) カーボン担体の特長

白金 (Pt) 系の活性種が、ナノレベルで分散します

「カーボン種」や「活性表面積」「表面」が性能を左右します

開発技術例「Pt 均一担持技術」



環境指針

環境指針

豊かな21世紀への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため、先進的な環境製品を開発、提供してまいります。

さらに、企業活動を通じてのゼロエミッションの継続・維持と電力、天然ガスのさらなる効率的活用、原材料の有効利用による環境負荷低減を積極的に推進してまいります。

環境技術の追求

環境と経済の両立をテーマに、製品開発、生産活動両面で、あらゆる可能性を追求し、新技術の発掘と定着に取り組みます。

自主的な取り組み

環境の汚染を予防し、環境保護に寄与するため、環境保全、省エネ、資源有効利用、設計・調達の各分野を中心に、環

境指針に基づき、自主的な環境目標を定め、全員参加の活動を計画し、未然防止の徹底と継続的改善を推進致します。

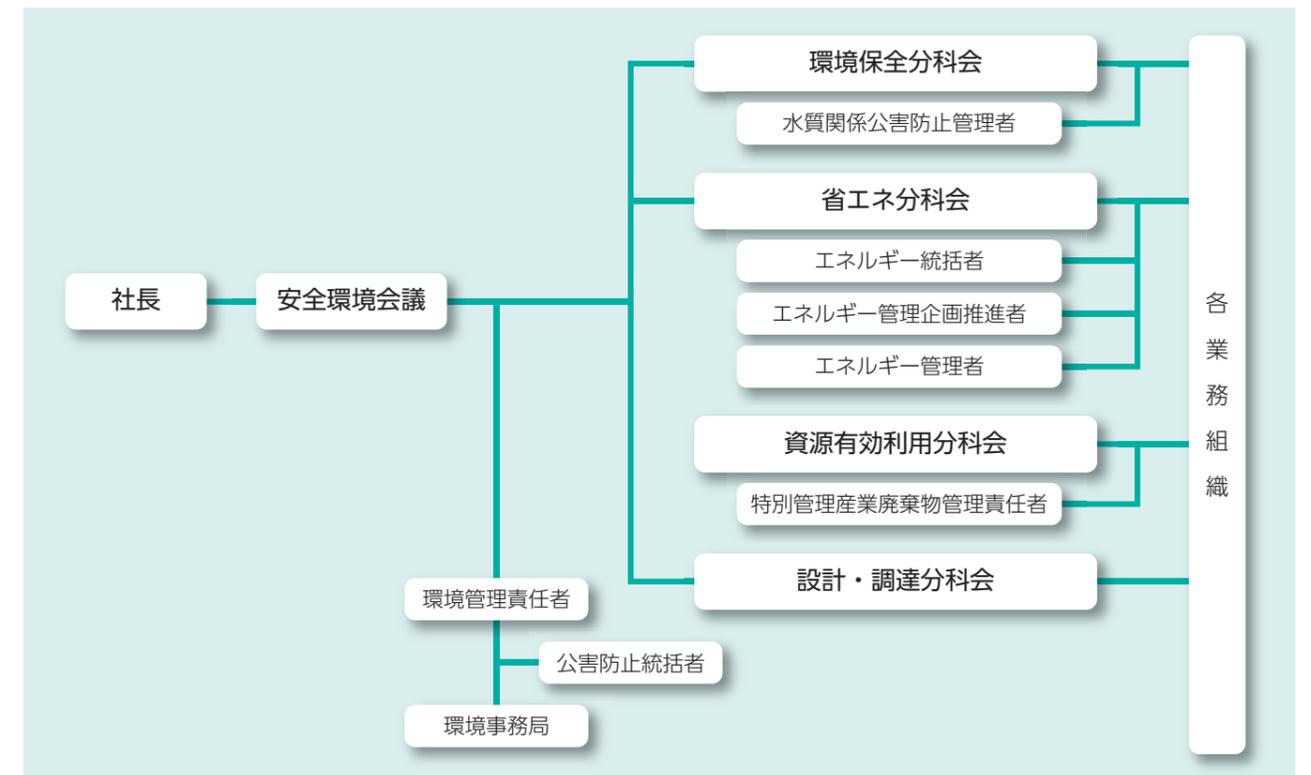
この活動を、社長を委員長とした経営者審査に於いて評価し、達成に向けての見直しを実施してまいります。

社会との連携・協力

企業活動に関わる全ての環境関係法規、法令、条例、協定及びお客様との合意事項の遵守はもとより、関係会社や関連産業との協力をはじめ、環境に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を推進してまいります。

環境教育の実施

これらの活動をより効果的に実行し成果を上げるために、当社で働く全ての人に対して必要な教育を明確にし、計画的に実施してまいります。



CO₂削減の取り組み

当社では環境活動の一環として、省エネ分科会でCO₂削減に取り組んでいます。主要なお客様の2020年目線での取り組み目標(製品の原単位としての削減量)は既に到達しています。

CO₂削減に大きな効果があった取り組みは以下の通りです。

自動車用触媒の生産工程における熱処理温度の変更。焼成(約500℃)から乾燥(約100℃)

触媒生産工程において、触媒層を形成するごとに500℃程度の焼成をしていましたが、焼成は最終工程だけとして、途中工程は乾燥(100℃程度)で完了させる工法に変更しました。性能確認を完了し、お客様の承認を得ることができました。

LPGから都市ガスへの燃料転換

都市ガスがない地域でしたが、静岡県を横断する都市ガスの構想時に積極的に働きかけをし、埋設配管を当社まで引き入れました。全工場のLPG燃料を都市ガスに変換するため、長期連休ごとに工事を1年以上継続し、切り替えを全て完了しました。

今後の取り組み

材料加工工程において、従来の1/10以下の水分量で済む工法の開発を行っています。これによる熱処理工程の効率化にて、全体のCO₂排出量の10%程度の削減を予定しています。

■ CO₂ 排出量削減推移



廃棄物排出量の削減

当社の廃棄物は、埋設廃棄物が2006年まで発生していましたが、活性炭の再生や燃料への転換により排出ゼロを達成しました。それ以降、現在に至るまで埋設廃棄物はゼロを継続しています。

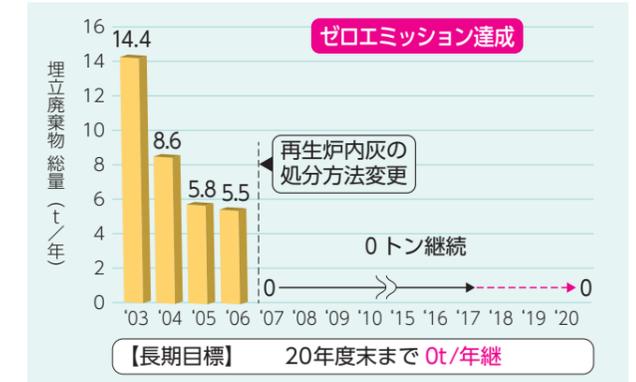
また、焼却廃棄物の削減にも力を入れています。これらの取り組みは、資源有効利用分科会で取り扱っています。

廃棄物の細かな分別により資源としての活用を進め、有価物化にも成功しています。書類については「エコBox」を活用して収集し、シュレッダーダストや汚れが少ないダンボールなどと共に、資源として再利用しています。

プラスチックごみなども成分や汚れ具合で非常に細かく分別を行い、再利用可能なものは廃棄ごみとしないなど、地道な活動を行っています。



■ 埋立廃棄物 排出量実績



■ 焼却廃棄物 排出量目標



自然と人にやさしい製品づくり

環境保全に貢献するカタラーの触媒

カタラーの自動車用触媒は、排気ガスに含まれる有害物質を年間約1,250万トン無害化^{*}。自然と人にやさしい製品づくりを目指しています。



^{*}当社調べ…算出条件：国内販売車両(当社触媒搭載)台数125万台/年、触媒250万個/年、平均使用年数12年、平均走行距離1万km/年

環境コンプライアンス

当社は環境負荷物質の使用及び取り扱い制限を実施しており、使用に当たっては制限物質であるかの確認を実施する仕組みを作っています。

購入品において、特に材料などはお客様指定の使用禁止物質などの含有の有無を設計段階から確認するプロセスとしています。また、関連法規(化学物質排出把握管理促進法、労働安全衛生法等)との関連性も調査し、社内周知及び事前対策を実施しています。

社内では「異常・苦情」を受け付ける仕組みがあり、環境事故の未然防止に努めています。また、環境保全分科会を中心として、社内環境巡視を定期的実施し、改善を進めています。更に、その活動の充実を図る目的でトヨタ自動

車の生産・環境ワーキング活動に参加し情報共有と情報交換を行っています。

法令及び県や市の条例、協定に基づいて、環境データの定期報告を実施しています。また、条例で規定されている約1/2の排出量や濃度の自主管理基準を決め、遵守しています。



総合排水処理場

環境教育

当社では、製品を通じて大気汚染防止などの環境保全に貢献しています。

生産工程で環境問題を引き起こさないように、会社全体としても環境事故防止は特に力を入れて活動をしています。社内で働く従業員に対し、ISO14001環境マネジメントシステムを理解と当社がどのような取り組みをしているのかを学んでもらうため、環境マニュアル及び手続きで社員の環境教育を義務付けており、次のような教育・講演会などを実施しています。

- ・新入社員、キャリア採用向けの環境基礎教育
- ・定期的実施するリフレッシュトレーニング
- ・環境各分科会における勉強会
- ・ISO14001の内部監査員教育
- ・毒物劇物管理責任者教育等の法令に対応した教育
- ・その他、外部講師を招いての講演会



設計・調達分科会による技術者向け環境教育の実施風景

ステークホルダーとの環境交流

当社独自の環境保全活動の他に、ステークホルダーとの交流、認識共有を目的とした活動を行っています。「安全・環境について考える会」では、仕入先様や構内作業をされる会社様を招集しお互いの活動事例の紹介を取り入れた意見交換会を実施しています。

この会は2007年から実施し、毎年2回の開催で定例化しています。直近では約80名が参加し、充実した内容となっています。

地域との交流では、地元の小学校を訪問し、当社従業員が講師となり出前授業を行いました。授業では、環境汚染の問題や排気ガスを触媒がきれいな空気に変えてくれることを分かりやすく説明し、化学反応を知ってもらうため、一緒に実験をしたり、触媒に触るなどの体験をして児童たちも積極的に授業に参加しました。児童たちの予想以上の関心の高さに講師も驚きと喜びでいっぱいでした。地球環境保全の重要性を伝えることが出来ました。今後も工夫を凝らして継続していく予定です。



お互いの活動事例の紹介を取り入れた意見交換会を開催



出前授業の様子。実物の触媒に触ってもらう

持続的成功のための品質経営を目指した TQM活動を推進

排出ガス規制の強化、自動車業界は100年に一度の大転換期と言われ、電動化・AI活用などと経営環境はめまぐるしく変わっています。このような中、キャタラーでは、経営の中核にTQM (Total Quality Management: 総合的品質管理) の考え方を置き、「お客様第一・継続的改善・全員参加」の基本理念のもと、製品の品質向上だけでなく、経営の質向上をも目指した「品質経営」を全員参加で

実践しています。この取り組みを通じ、2015年にはTQMの世界最高ランクの栄誉である「デミング賞」を受賞いたしました。

デミング賞受賞以降も、刻々と変わる環境に対し、TQM活動でつくり上げた仕組みを見直し、持続的成功を目指しています。



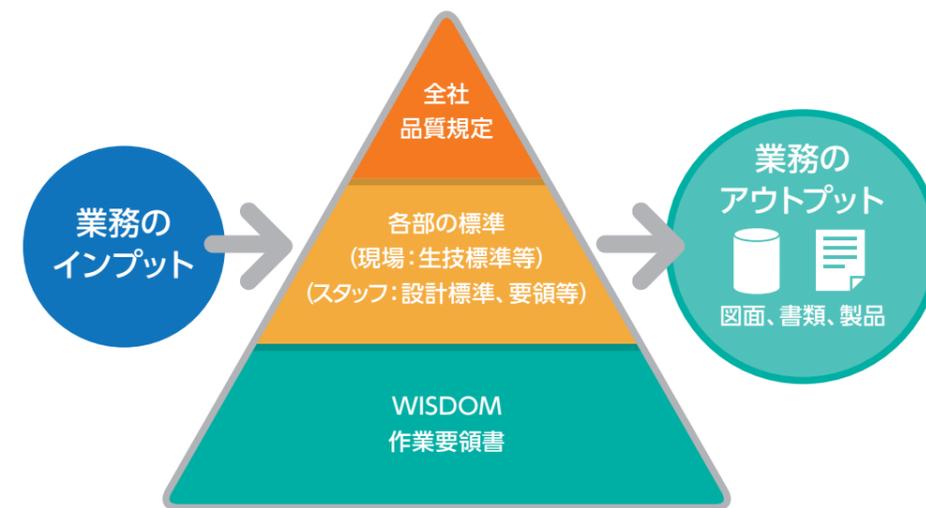
C-QIC Cataler-Quality Innovation Challenge (仕事の質を向上させる取り組み)

キャタラーでは、「不良品を作らない工程作り」「故障しない設備づくり」「失敗しない業務プロセスの構築」に全社を挙げて取り組むために、2012年からC-QICを展開しています。C-QICとは、“自工程完結”の考え方によって仕事の質を向上させることにチャレンジする取り組みで、「問題を起こさない標準づくり」と「問題を再発させない仕組みづくり」を通じて「製品の質」と「仕事の質」の継続的な改善を図っています。

このような取り組みは、「業務の手戻りをなくし、従業員一人ひとりが自信を持って業務を進められるようにする」「業務をスムーズに伝承し、多能工化につなげる」「不具合対応に費やしていた時間をよりクリエイティブな業務に転換する」など経営品質の向上に繋がっており、お客様の期待を超える製品・サービスの提供に貢献しています。

■仕事の標準化と進化

自分の仕事を完結させるためには、前・後の仕事とのつながりを満足させるように業務プロセスを標準化する。



全ての業務プロセスの各標準書を作成

基盤の標準化

実施者のスキルに応じて作業手順を細分化 ⇒ WISDOM、作業要領書の作成 (注: Work Instruction Sheet for Divisional Operation Management = スタッフの作業要領書)

責任者の任命

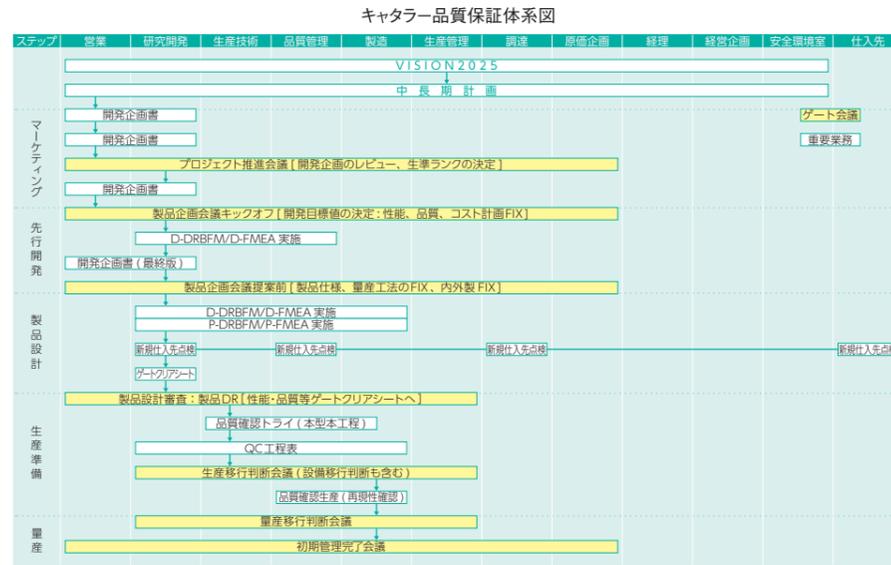
このプロセスの熟練・熟知者をマスター登録 ⇒ 経験・カンコツの顕在化

進化サイクル

細分化作業の良品条件・判断基準を明示化し、常に手順・運用の確かさを監視・更新 ⇒ WISDOM、作業要領書の進化

C-TOP Cataler-Total Operation Procedure (製品品質を確実に保証する仕組み)

当社は、1997年にQS9000、1998年にISO9001を認証取得、2005年にISO/TS16949を認証取得、2014年からはJISQ9005の考え方を取り入れ、2017年からは、IATF16949に基づいた品質マネジメントシステムを構築してきました。更に、お客様の求める高品質な製品をよりタイムリーに提供し続けるため、自工程完結の考え方による進化し続ける組織・人財・仕組みづくりにより、TQM活動を推進し、品質経営の更なる強化を目指しています。具体的な取り組みの一つとして製品実現に関連



する各部署が連携し、従来あった品質保証体系図 (C-TOP) を見直しました。製品実現に関わる各機能の市場クレーム

ゼロを実現する為、重要プロセスや活動タイミングを洗い出し、品質保証体系図の再構築を行っています。

C-BCM Cataler-Business Continuity Management (事業継続マネジメント)

本社所在地が南海トラフ巨大地震の震源域及び海岸沿いということもあり、様々な取組みを実施しています。人命・安全を最優先に、お客様への製品供給、地域社会の復興に貢献のできる体制を確立し、取り組みを続けています。

巨大地震を想定した活動を強化し、2012年にはC-BCMとして活動を開始、さらに2014年にISO22301*を取得しました。

*事業継続マネジメントシステム (BCMS) に関する国際規格

実践力向上訓練と活動

- 大地震発生時を想定した避難訓練
- 有事の際の初動訓練
初動組織による救護、消火、従業員支援などの実践訓練
- 生産復旧及び生産バックアップ訓練
- シミュレーション訓練 (突然の事態提示に対して、組織での対応力の強化)

- グローバルBCM活動:
各海外拠点の最大インシデントをピックアップ
- ISO22301認証取得を進めてBCM強化を図っているCATALER (THAILAND) CO.,LTD.は2017年取得済 (認証機関BSI)
- 有事の際の地域連携:
掛川市と支援協定を締結、地域住民の避難路等も整備
- ステークホルダーへの貢献:
多くの企業や行政の視察受け入れによる情報交換
- サプライチェーン全体のBCM強化推進
当社のBCM活動を広く紹介



C-BCMに基づき、防波堤、水門の点検・整備も行う

安全衛生体制と労働安全への取り組み

安全衛生委員会は労使で構成され、労働組合からも執行部が委員となって参画し、活発な意見交換を行っています。また、全社員への情報共有のため「安全衛生推進者」を各部から選出しています。

全ての部長以上が参加する「安全環境会議」も開催しており、安全衛生に対する取り組みは二重、三重の体制になっています。

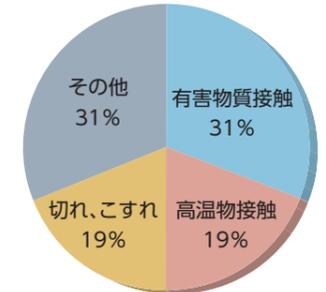
労働安全については、作業要領書に基づくリスクアセスメントを実施し、約4,000の作業について評価と対策を行いました。対策が困難なリスクはリスクレベルを表示し、危険度の周知を行っています。また、各作業場では、作業安全のための保護具の着用を義務付けており、必要に応じて「緊急シャワー」を設置しています。

生産現場では重大な事故が発生しないように、特に異常処置作業等においては動力源を切って作業を行う「ロックアウト」機構を全ての設備に取り付けています。

■キャタラー本社労働災害の件数推移と傾向



2013~2017年度発生要因割合



保健衛生への取り組み

当社では従業員の健康を守るため定期・特殊健診を実施後、有所見者に対して管理者が再検査の受診勧奨を行っています。その結果2017年の有所見者の再診率は、100%近くでした。

2015年には風疹対策として、ワクチン接種の費用補助制度を導入し、95%以上の従業員が抗体保有となりました。

2017年からはインフルエンザ予防接種を社内実施、更に2018年からは婦人科健診も社内実施しています。これら予防接種などは業務時間内での受診が可能であり、健康経営の一環と考えています。

また、メンタルヘルスは産業医や保健師が対応しています。2018年4月からはEAP (従業員支援プログラム) を開始し、臨床心理士への相談も可能となっています。ストレスチェックの集団分析では全国平均と大きな差はなく組織上の問題は発生していませんが、高ストレス判定者については、産

業医や保健師が個別に状態を確認してアドバイスなどを行う仕組みを確立しています。



安全・健康に関する社員への情報発信も重要



風疹感染拡大予防等の活動が評価され、公益社団法人日本産婦人科医会より表彰を受ける (2018年2月)

働き方改革（ワークライフバランス、労使関係など）

経営理念に「労使相互信頼」を掲げ、定期的な労使間の情報交換の場を設定し、労働組合のワイガヤ活動などで抽出された組合員の意見にも真摯に向き合い議論しています。労働時間としては、労使間で合意した所定外労働時間の厳守はもとより、さらに少ない社内管理時間を設定し、労使双方で遵守すべく全組合員がその時間内で勤務しています。

近年 人材育成にも注力しており、階層別教育や専門教育を充実化し、若手社員を計画的かつ効率的に育成して早期戦力化を図っています。この育成により、一人ひとりが輝く人材となり、少数精鋭の組織実現を目指しています。また、女性が働きやすい職場づくりも進めています。産前42日、産後56日の産前産後休暇に加え、最大2年間の育児休暇、児童が小学校4年生になるまでの短時間勤務制度などを設け、子供を持つ女性社員のほぼ全員がこれらの制

度を活用して育児と仕事のバランスをとりながら職場復帰しています。更に上司へのイクボス*養成研修や女性社員の意識改革研修などで社員の育成と活躍を支援しています。これらの企画を様々な部署や年代の女性社員で構成された社内ワーキンググループ「つぼみ」で行っています。女性社員の更なる活躍に向けて日々活発な議論がされています。

※自らも仕事と私生活を楽しみ、部下の私生活やキャリアを応援しながら業績アップ、組織活性化ができる上司



イクボス養成研修会



つぼみメンバー

従業員とのコミュニケーション

持続可能な経営にとって従業員との連携強化も重要と考え、様々な取り組みを実施しています。

《情報共有》 経営陣から従業員へのダイレクトなメッセージを展開する方策として「メールマガジン」の配信を開始。まずは、経営トップに対して、直接メールにてコンタクト可能な環境を作っています。

更に、社内報をリニューアルし、従業員・職場への賞賛、経営情報の理解促進を重点的に発信し、コミュニケーションの充実を図っています。

《50周年行事》 2017年5月、「創立50周年式典」を開催し、50年の節目を、従業員、役員、OBに加え、地域の方々にもご参加いただきました。また記念行事として、日ごろ当社を支えてくれる家族に感謝を示し、また職場に対する理解を深めてもらうため、そして働きやすく家族を大切にす職場づくりを目指すため、「キャタラー ファミリーデー」を開催しました。本社オフィス・工場に従業員のご家族を招待して職場を見ていただき、会社の雰囲気や体感、理解してもらうイベントです。約500名にご来社いただき、パパ・ママの職場見学をしたりと、楽しくにぎやかな一日になりました。

《恒例イベント》 社会の恒例イベントに夏の納涼祭（労働組合協賛）があります。芸能ショー、抽選会、打ち上げ花火など、従業員、ご家族、地元の方々とともに、楽しいひとときを過ごしています。

労働組合の恒例イベントとしては「餅つき大会」があります。従業員とご家族約500名が集まり、子供・大人が一緒になって餅つきを楽しんでいます。当イベントでは、餅つき以外にも様々な企画があり、年末のひと時を従業員だけでなく、ご家族の皆様にもお楽しみいただいています。



納涼祭



餅つき大会

地域との連携

2017年5月13日、掛川市のシティプロモーションの推進に向け、地元への貢献、相互の連携を強化するため包括協定を締結し、防災対策・教育・環境保全等の様々な分野での活動を展開しています。

地域防災の充実を目的とした防災施設の一般開放や地震津波対策への寄付、スポーツ振興では掛川・新茶マラソンの特別協賛・ボランティア活動や、掛川市城下町駅伝及び地元開催の野球や、バレーボール大会への協賛を継続しています。

その他、「アダプトロードプログラム」にて本社に面した道路の愛護活動や海岸線の緑の復活を担う植樹活動への積極的参加、地元の「まちづくり」イベントへの協賛や諸活動参加、社会福祉活動への取り組みなど、これらの活動を通じて、地域から愛され、信頼される企業を目指します。



シティプロモーション掛川モデルへの参加



しずおかアダプトロードプログラム



掛川新茶マラソン特別協賛



地震津波対策寄付金



化学に触れる列車「キャタライナー」（天浜線車両ラッピング）

認証取得



注）ISO22301は本社で認証取得

社会貢献活動のあゆみ

年	月	内容	
2013年	1月10日	掛川市と希望の森づくり協定締結	
	3月23日	掛川市沖之須の砂防林で希望の森プロジェクト（植樹）	
	3月16日	大浜公園の清掃	
	6月8日	クリーンウォーク	
	6月16日	アダプトロード草刈り	
	6月23日	前浜海岸清掃	
2014年	11月2日	アダプトロード草刈り	
	3月1日	「希望の森プロジェクト」植樹	
	6月7日	潮騒橋クリーンウォーク	
	6月14日	アダプトロード草刈り	
	6月15日	前浜海岸清掃	
2015年	10月25日	アダプトロード草刈り	
	4月19日	第10回記念掛川・新茶マラソン特別協賛、ボランティア参加	
	6月6日	小笠山クリーンウォーク	
	6月6日	アダプトロード草刈り	
	6月7日	前浜海岸清掃	
	6月13日	「希望の森プロジェクト」植樹	
	9月27日	「希望の森プロジェクト」除草作業	
	10月24日	アダプトロード草刈り	
	2016年	3月12日	高天神城ごみ拾い
		4月10日	第11回掛川・新茶マラソン特別協賛、ボランティア参加
4月22日		新入社員が小学生に交通指導（黄色い手帳運動協賛）	
4月～		熊本地震 支援募金	
6月4日		アダプトロード草刈り	
6月5日		前浜海岸清掃	
6月11日		「希望の森プロジェクト」植樹	
8月24日		白熱サイテック教室で触媒と活性炭を紹介	
10月15日		「希望の森プロジェクト」除草作業	
2017年		3月15日	千浜地区内北部区グランドゴルフ場に木製ベンチを寄付
	3月11日	高天神城ごみ拾い	
	4月1日	S-H all 完成（防災機能を集約）	
	4月9日	第12回掛川・新茶マラソン特別協賛、ボランティア参加	
	4月25日	新入社員が介護老人福祉施設を訪問	
	6月4日	前浜海岸清掃	
	6月10日	「希望の森プロジェクト」植樹	
	7月8日	掛川法人会主催クリーン作戦	
	9月13日	大坂小学校で環境出前授業	
	10月14日	「希望の森プロジェクト」除草作業	
2018年	2月20日	千浜小学校にグランドピアノを贈呈（屋内運動場落成）	
	4月15日	第13回掛川・新茶マラソン特別協賛、ボランティア参加	
	4月17日	くにやす苑で認知症の講義、施設利用者ふれあい体験（歌・ゲームなど）	
	5月26日	「希望の森プロジェクト」植樹	
	6月3日	前浜海岸清掃	